



日本シイムケイ株式会社
(証券コード：6958)

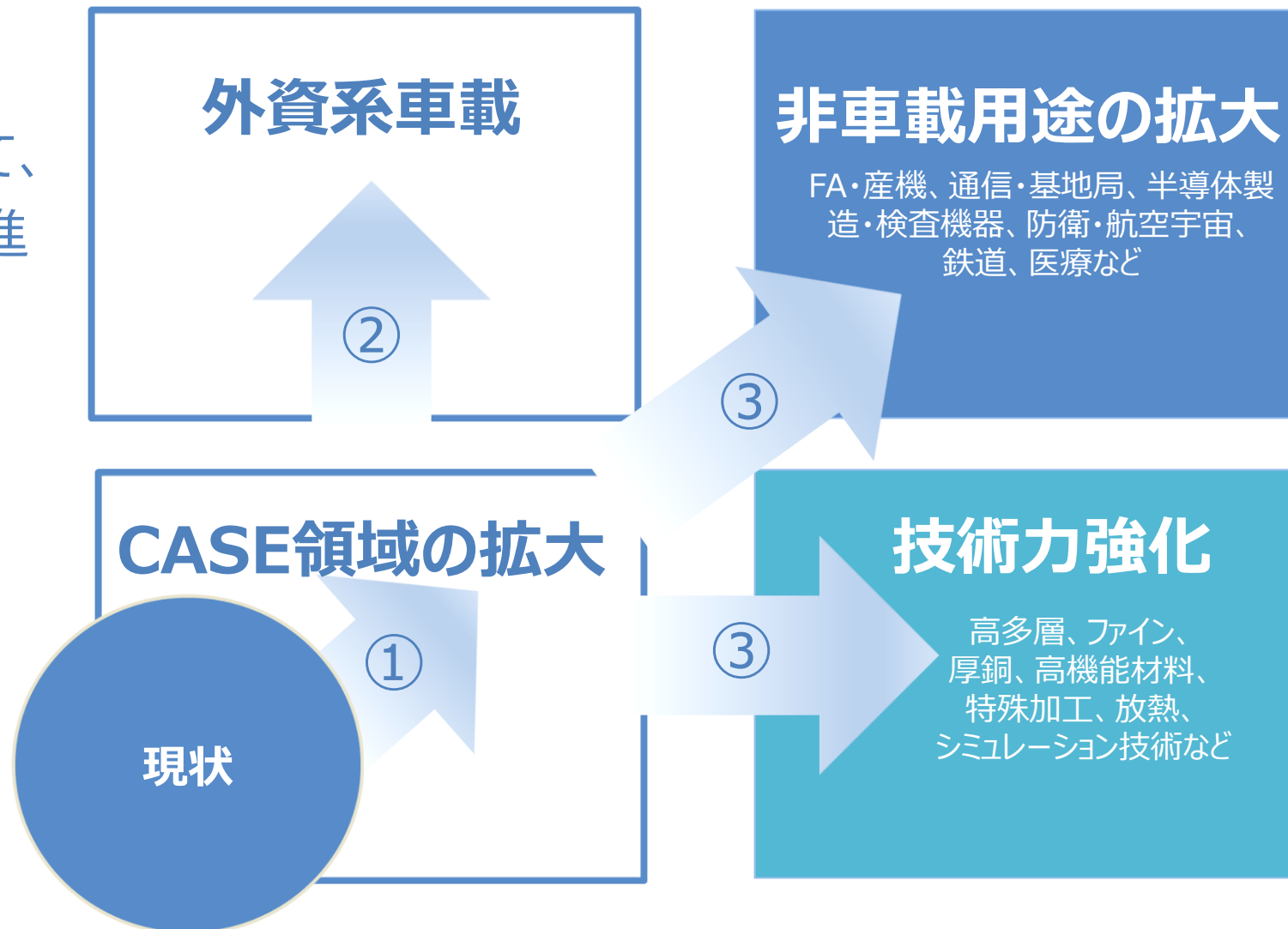
2025年3月期 決算説明会資料

2025年05月16日
日本シイムケイ株式会社

ポートフォリオの多角化へ

■ 概要

- ①主力の車載事業は収益源として、CASE領域のターゲット受注促進
- ②新規外資顧客への積極的な受注活動継続
- ③非車載用途に必要な技術力を強化
- ③非車載用途を拡大し、ポートフォリオの多角化を推進



1. 2025年3月期 連結業績
2. 2026年3月期 連結業績見通し
3. 新事業領域成長戦略
4. 車載成長戦略
5. その他
6. 補足資料

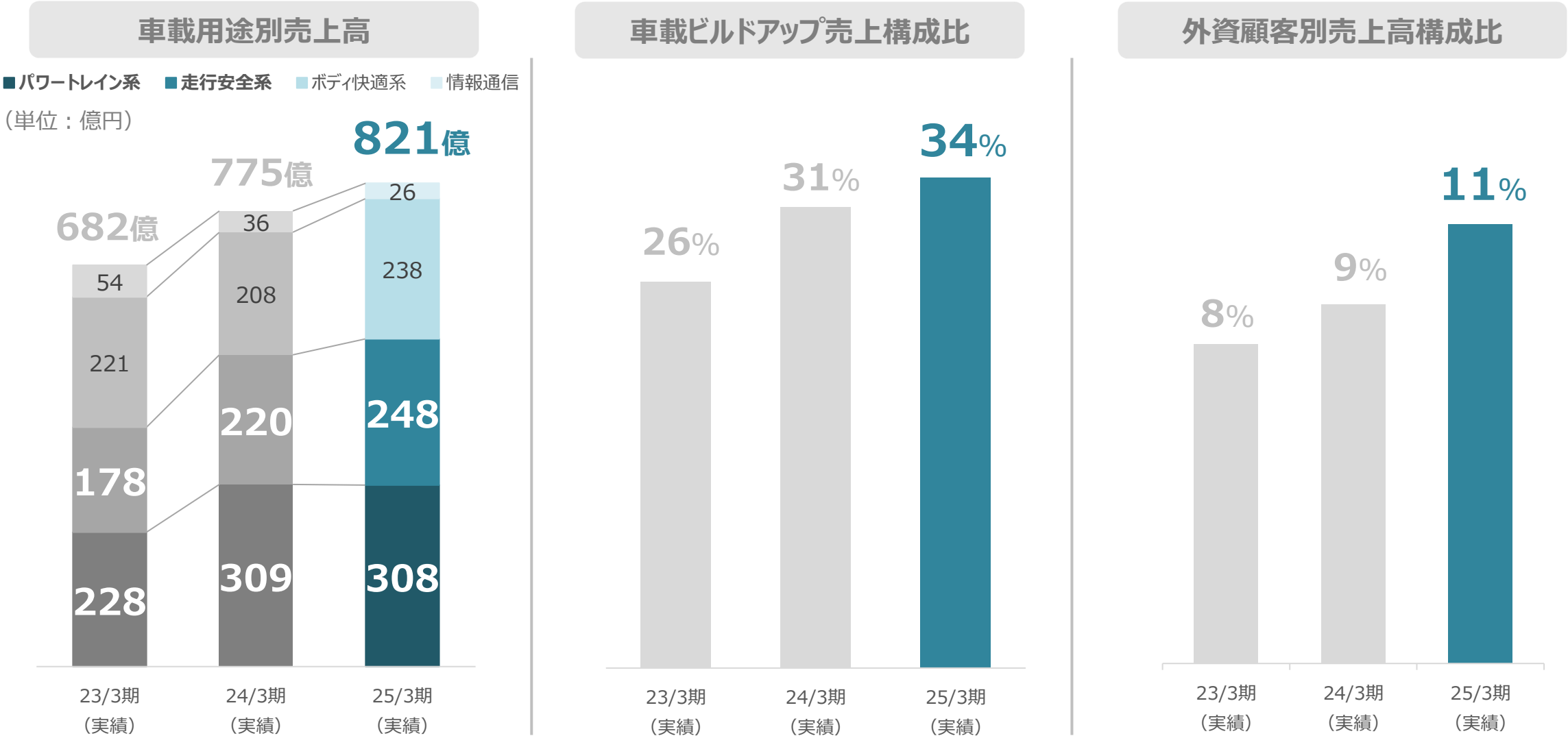
1. 2025年3月期 連結業績

- 決算のポイント
- ・売上高は、注力分野の走行安全系（+13%）向けの販売が順調に推移したことや為替影響などにより、増収
 - ・利益面では、生産工場の稼働率は低調に推移しているものの、生産性向上や為替影響などにより、増益
 - ・為替差益19億円を計上

(百万円)	24/3期 実績	25/3期 実績	増減額	増減率
売上高	90,568	95,486	+4,917	+5%
営業利益	3,529	3,807	+277	+8%
率	3.9%	4.0%	+0.1%	-
経常利益	4,795	5,533	+738	+15%
当期純利益	3,855	3,789	-65	-2%
平均為替レート (USD/JPY)	141.20	152.27	+11.07	+8%

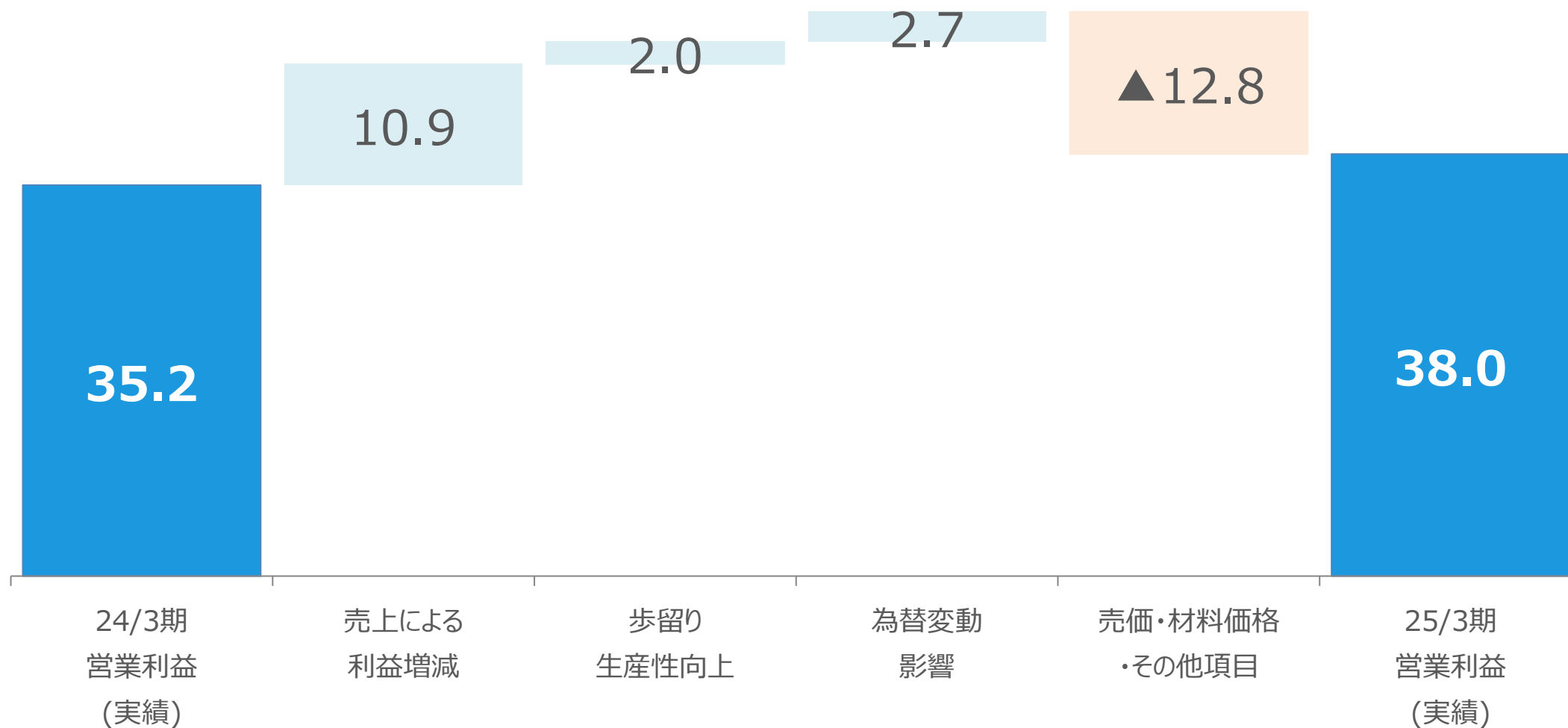
※「親会社株主に帰属する当期純利益」を「当期純利益」として記載

車載成長戦略は順調に進捗



③営業利益増減分析

(単位：億円)



2. 2026年3月期 連結業績見通し



①連結損益

■業績予想のポイント

・下期よりCASE需要の新規案件受注見込みも、各国の自動車需要回復が鈍い

＊ 関税政策については、現時点では影響を織り込むには不透明な要素が多く、通期予想に織り込んでおりません。

(百万円)	25/3期 実績	26/3期 見通し	増減額	増減率
売上高	95,486	96,000	+513	+1%
営業利益	3,807	4,000	+192	+5%
率	4.0%	4.2%	+0.2%	-
経常利益	5,533	3,400	-2,133	-39%
当期純利益	3,789	2,000	-1,789	-47%
平均為替レート (USD/JPY)	152.27	145.00	-7.27	-5%

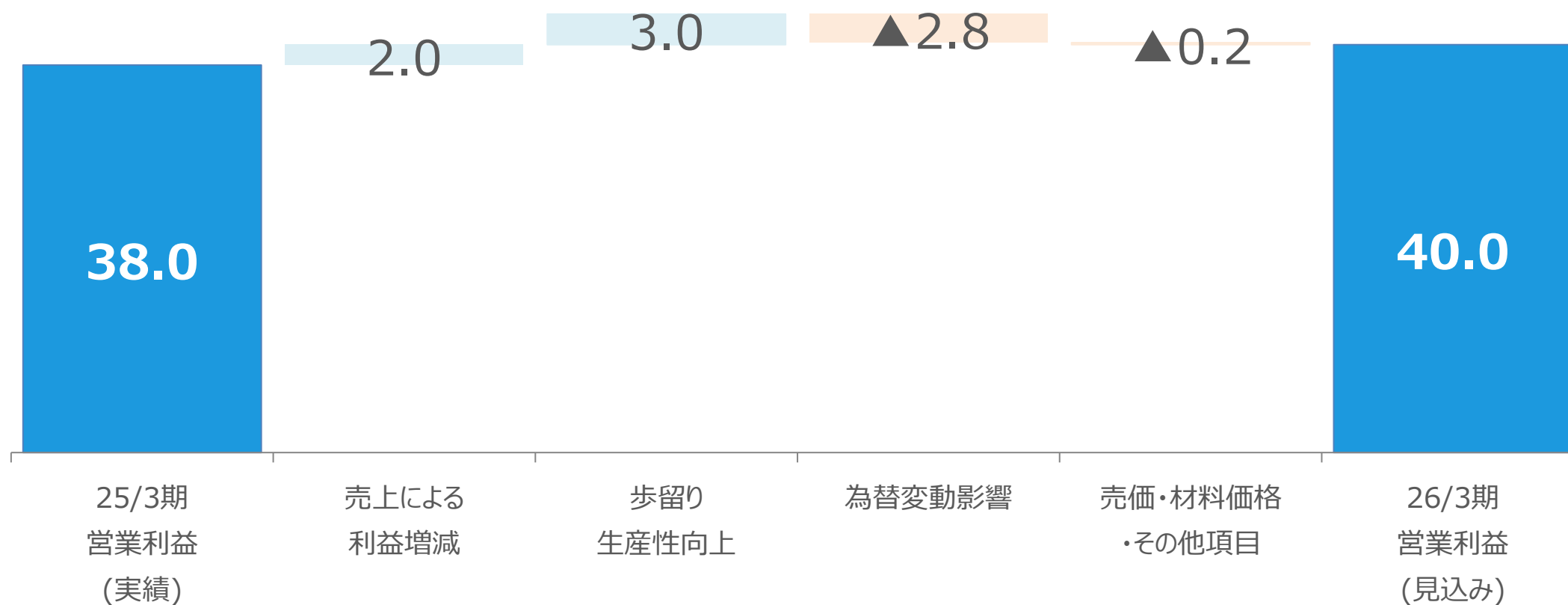
※「親会社株主に帰属する当期純利益」を「当期純利益」として記載

②現在の事業環境と対応策

現状認識	外部要因	■ 自動車メーカーの中国市場での販売不振 ■ 世界的なEV車の低迷 ■ 市況悪化に伴う外資顧客の需要減少など
	内部要因	■ 主要顧客向け自動車生産台数伸び悩みに伴う受注低迷 ■ タイ新工場の量産稼働時期の計画変更 ■ 新事業領域のボリューム不足
対応策	販売面	■ 新事業領域の更なる拡販推進 ⇒新事業領域成長戦略にて説明 ■ 車載向け高付加価値品の更なる受注加速、新規顧客の獲得 ⇒車載成長戦略にて説明
	利益面	■ タイ新工場稼働による収益向上（2025年秋より稼働） ⇒車載成長戦略にて説明 ■ 自動化、大判化生産による収益性向上 ⇒中国工場におけるモノづくりで説明 その他、各生産工場でのコスト抑制、歩留まり向上、合理化の徹底など

③営業利益増減分析

(単位：億円)



3. 新事業領域成長戦略

① 拡販に向けた営業・拡販体制

グローバルに拡販体制を強化、当社の強みである顧客対応力・提案力を武器に、
海外市場においても新事業領域の拡販を加速させていく

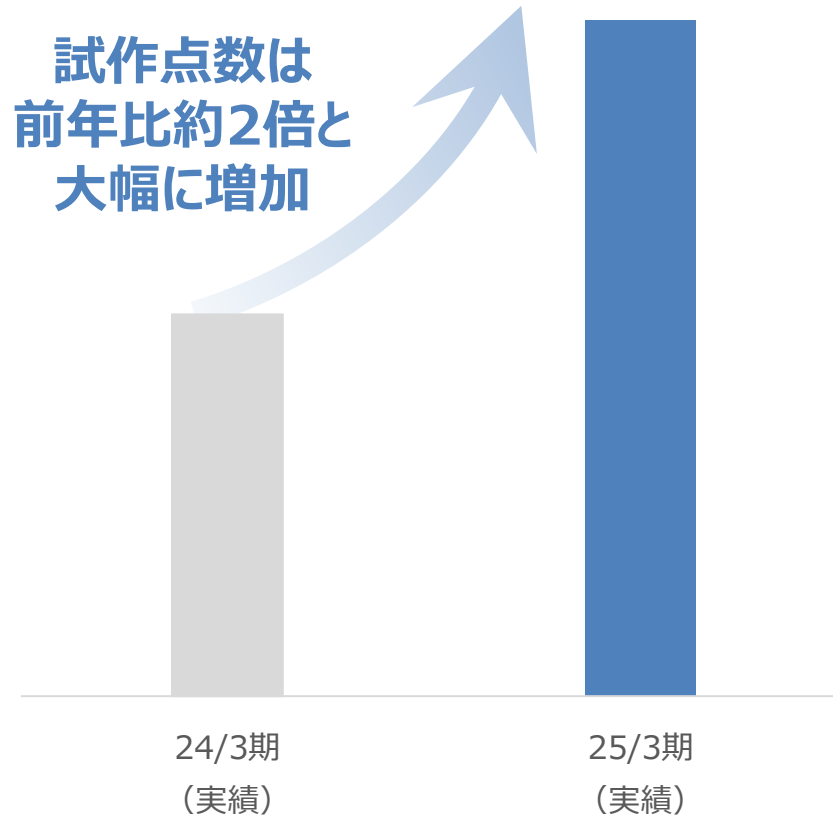
シェア拡大に向けた戦略

- ① 日本国内で新事業領域の拡販営業増強し、更に広く・深く活動
- ② 海外においては、REP（代理店）などを活用した拡販活動の実施
- ③ 海外展示会への出展を継続し、現地の販路拡大



新事業領域試作点数

試作点数は
前年比約2倍と
大幅に増加

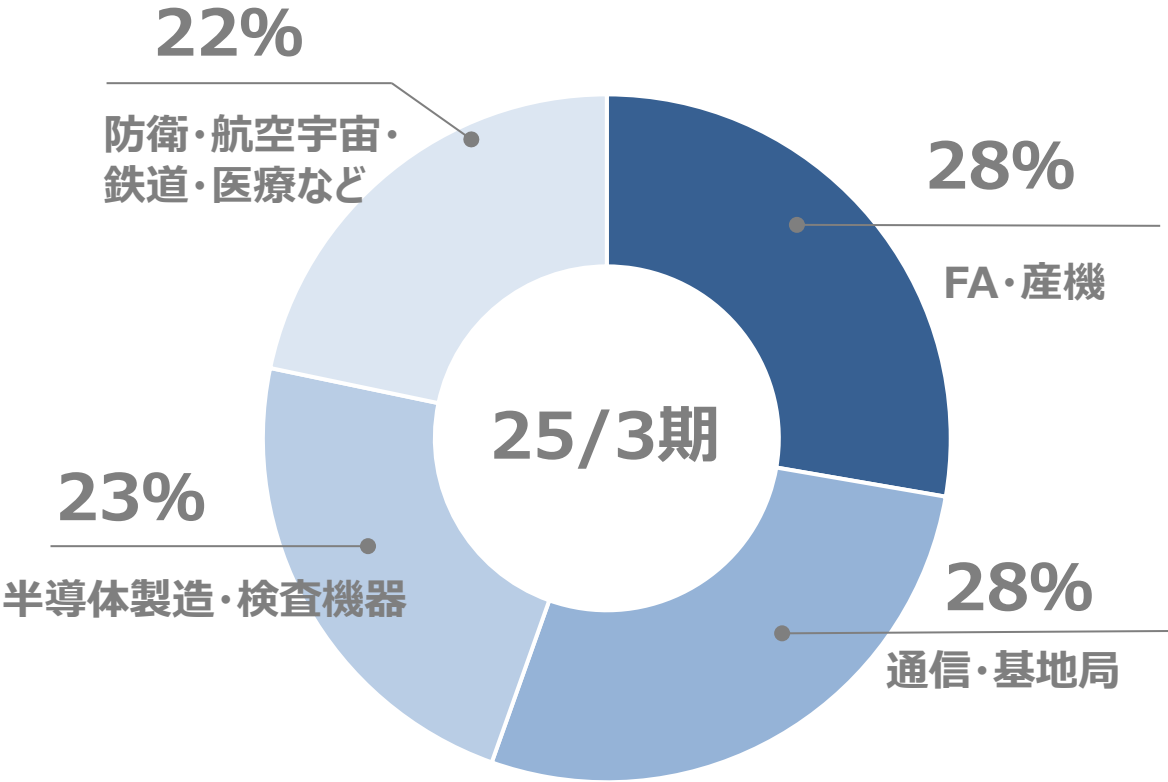


②要求技術及び開発状況

＜プリント配線板の技術動向＞

用途／ 技術要求	高多層	ファイン	厚銅	高機能 材料	特殊 加工
FA・産機	★	★	★	★	★
通信・基地局	★	★		★	★
半導体製造・ 検査機器	★	★		★	★
鉄道関連など	★	★		★	★
防衛・ 航空宇宙	★		★	★	★
医療				★	★

＜用途別開発案件数割合＞

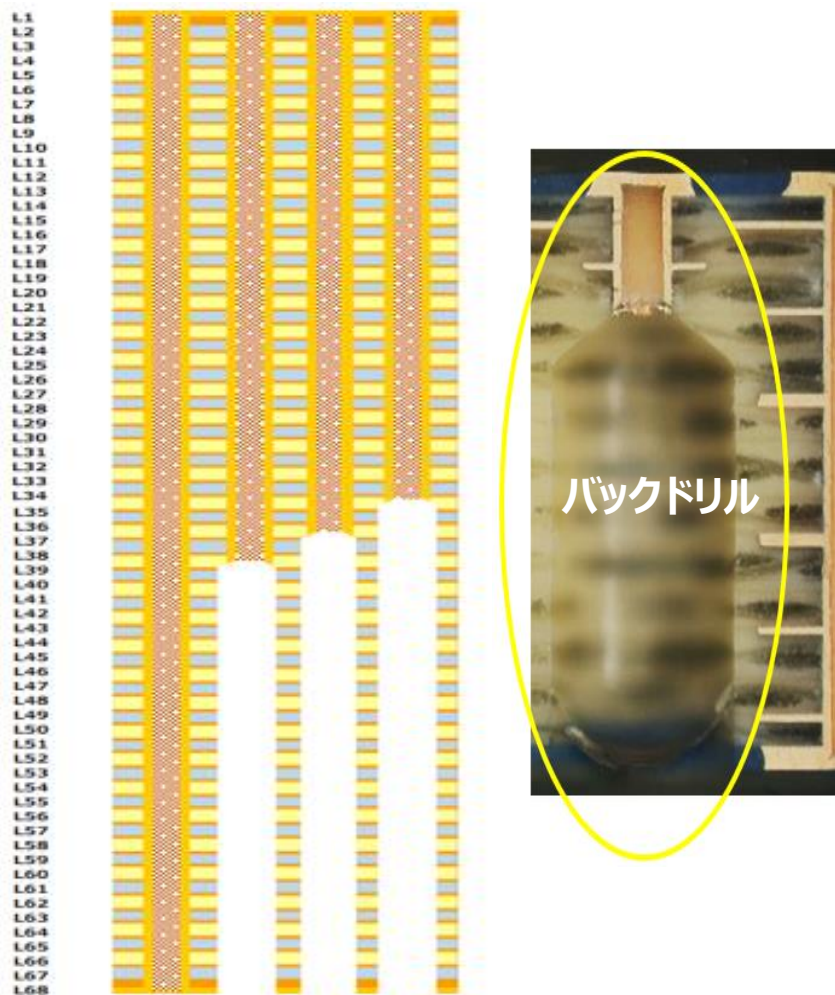


プリント配線板への要求事項：高度化・複合化が進む
⇒用途・製品毎に様々な技術進化が必要

③複合技術例

高度化・複合化する市場要求に対応すべく、技術を磨いていく

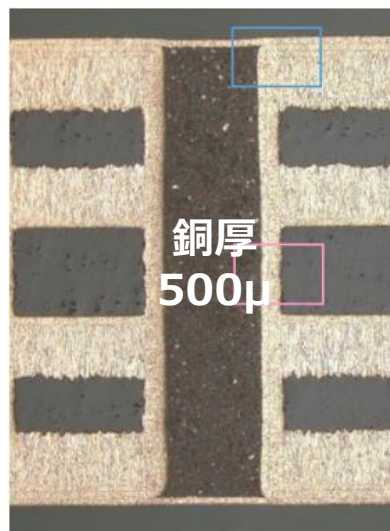
高多層（68層）+特殊加工（バックドリル）



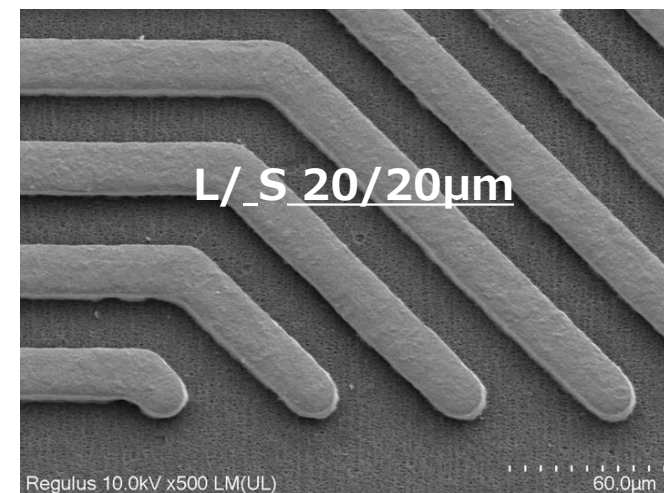
特殊材料+変則積層+ 特殊加工（バックドリル）+特殊加工（ディンプルピア）



厚銅



ファイン



④放熱プリント配線板の通常実施権取得について

2025年4月25日付にて、株式会社ダイワ工業が保有する
放熱プリント配線板（DPGA基板）の特許に関する通常実施権許諾契約を締結。

＜ビルドアップ化イメージ＞

＜特徴＞



1

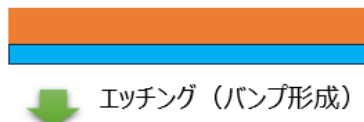
放熱性

2

接続信頼性

3

軽量化

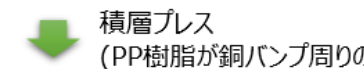


エッチング（バンプ形成）



銅板
キャリアフィルム

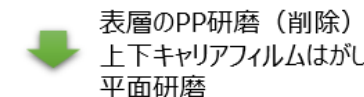
キャリアフィルムに貼り付いている



積層プレス
（PP樹脂が銅バンプ周りのスキマに充填し、固定・密着される）



プリプレグ
キャリアフィルム（穴明け済み）
両面銅張コア材（穴明け済み）



表層のPP研磨（削除）
上下キャリアフィルムはがし
平面研磨



DPGA
Technology



Heat Sink

HDI PCB

Chip

Copper block

Adherend



Anylayer 2-2-2 (t=0.22)

CMK HDI Technology



3W/m·K HSP paste

CMK Heat Radiation Technology

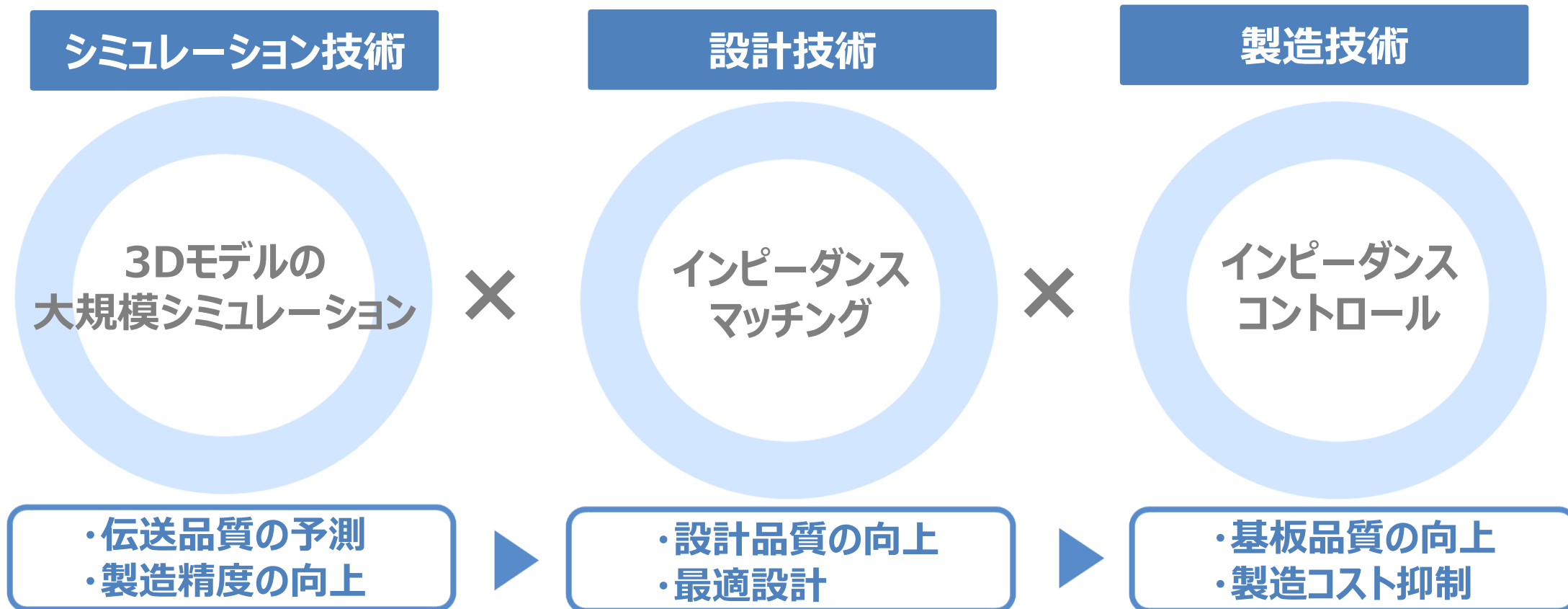
当社製造技術力により
ビルドアップ化が可能に

⇒本技術により、今後のプリント配線板に求められる放熱ニーズに対応、
設計・企画提案の幅を広げ、新事業領域の更なる拡販を目指す

⑤ 高速伝送シミュレーションの取り組み

急速に進むAI社会、高速伝送技術がカギ

現在、AIや自動運転、医療、ロボットなどの分野で、大量のデータをすばやく送る技術が大事
これを実現するには、プリント配線板も高性能である必要性がある



⇒ノウハウを活用し、ワンストップでAI時代における高速伝送ニーズに対応することで、
試作の回数低減と開発コスト削減が図れる

4. 車載成長戦略

①車載の潮流（市場別年成長率）

自動車市場は停滞しているものの、電動化、ADAS、自動運転進化による制御複雑化に伴い、ECUの数は増大し、**車1台あたりに必要となるプリント配線板の使用量は大幅に増加、**更にECUを統合する必要性から、**ビルドアップ配線板のニーズが拡大するトレンドは変わらない**

年成長率（'30/'25）

自動車生産台数
(台)



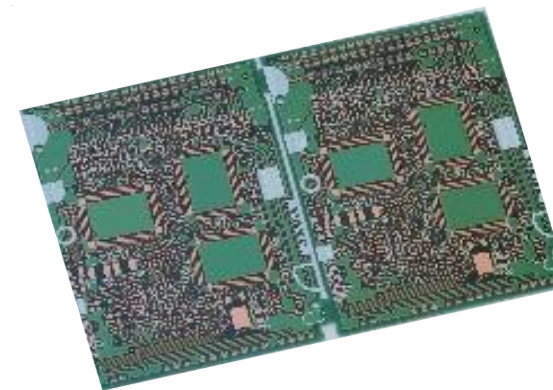
1.8%

車載向けプリント配線板数量
(m²)



5.4%

車載向けビルドアップ基板数量
(m²)



20.9%

②車載の潮流（ECUの統合化）

現在の自動車には、ECUが100個以上も搭載されているケースがあり、それぞれが分離機能している。ADAS、自動運転進化で、自動車全体を制御する**統合ECU**により、複雑かつ連動した機能の実現が可能に

＜ドメイン型統合ECUの1例＞

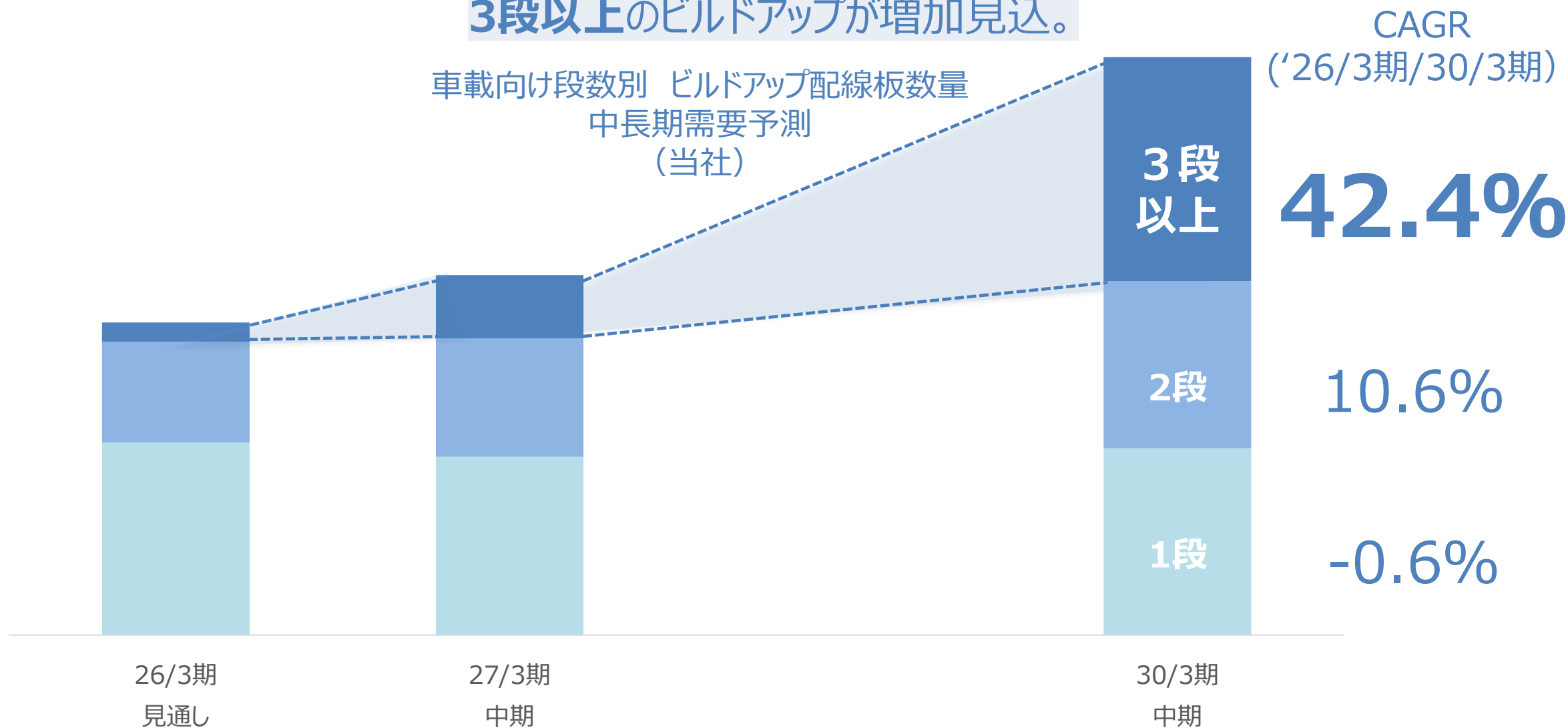


プリント配線板への要求事項：**統合するECUの機能を1枚の基板へ**
⇒ビルドアップ配線板の多段化・大型化は進む

③ビルドアップ基板の中長期需要動向

ビルドアップ配線板の多段化のトレンドにおいて、当社中長期需要においても

3段以上のビルドアップが増加見込。

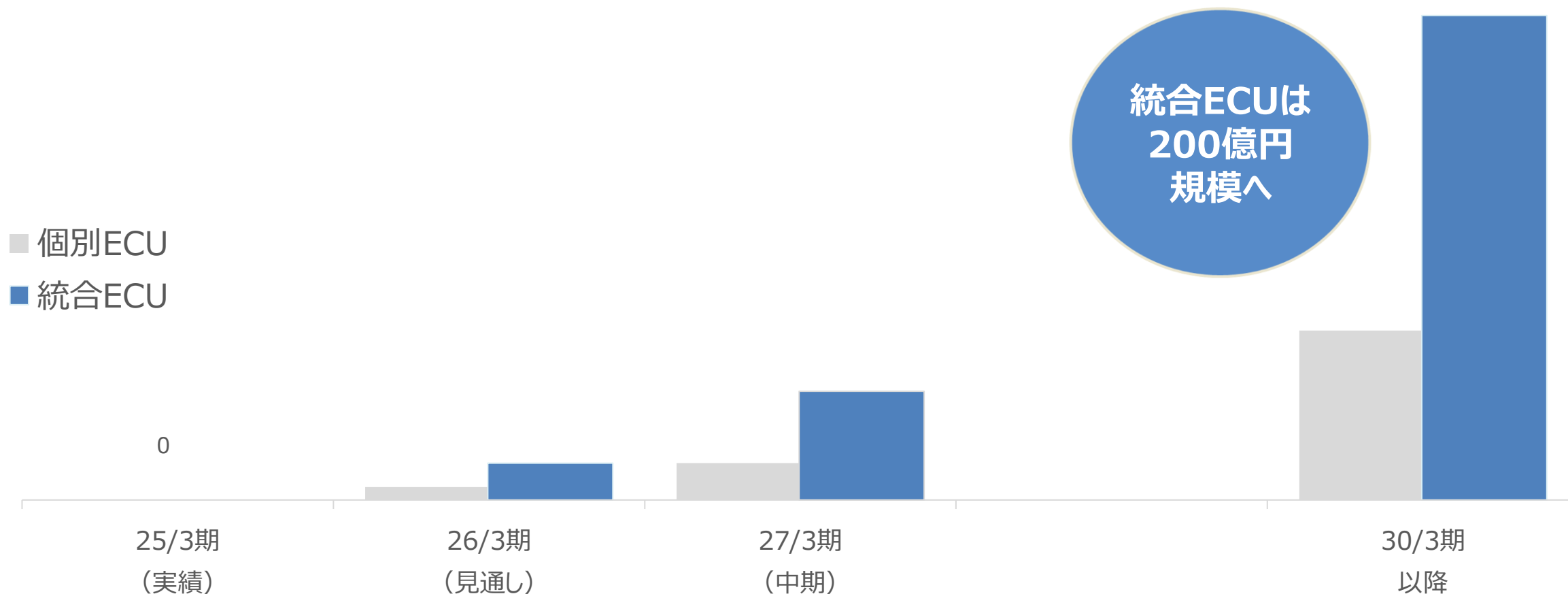


④車載成長戦略（統合ECU売上高）

成長ドライバーである「**統合ECU**」立上げ開始
売上増と共にビルドアップ多段品によるミックス改善によって収益向上を目指す

個別ECU／統合ECU
自動車生産台数一定の場合の売上寄与の差イメージ

（単位：億円）

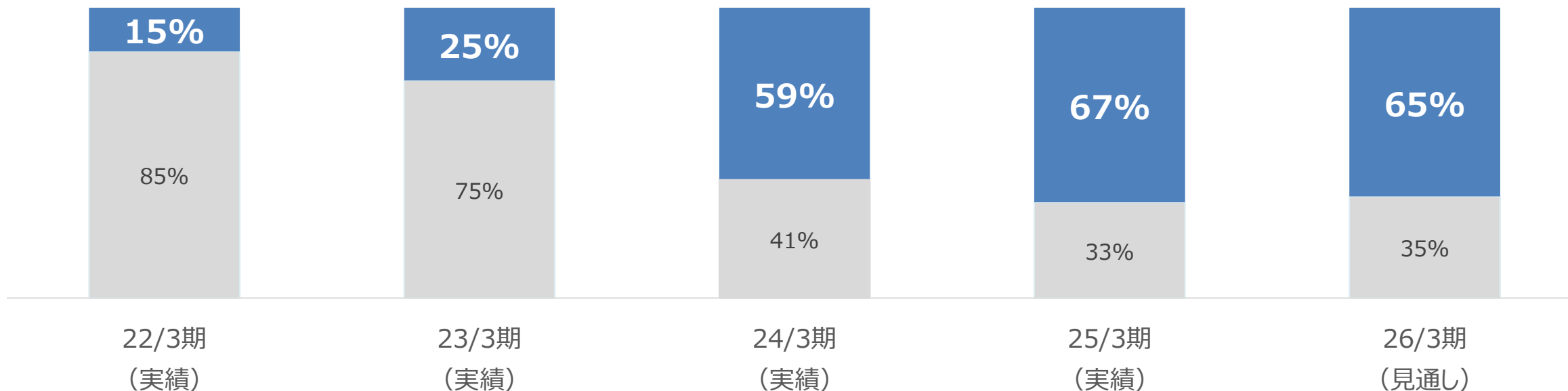


⑤車載成長戦略（外資顧客の状況について）

外資主要顧客（メガTier1）向け ビルドアップ配線板構成比

- ・外資主要顧客においては、走行安全系の付加価値品をターゲットとし、売上を拡大してきた自動車の全体需要減少や価格競争激化などの影響あるものの、引き続き注力していく

■ビルドアップ配線板 ■多層プリント配線板



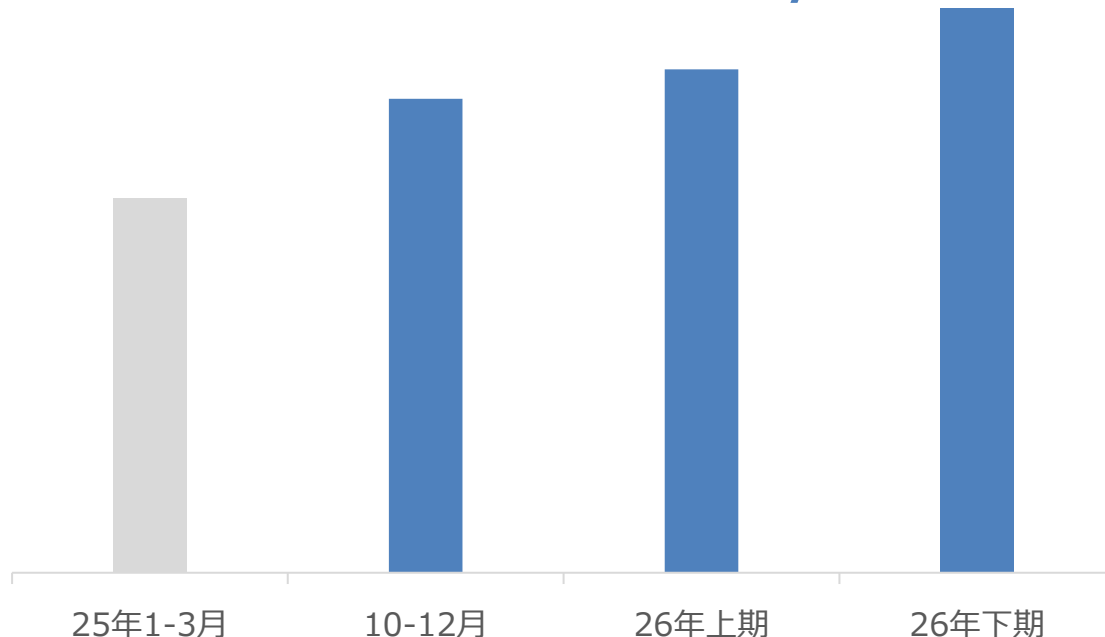
新規外資顧客向け状況

- ・新規外資顧客である北米EVメーカー向け製品が本格化
- ・その他、新規外資メガTier1についても、順次量産開始予定

⑥タイ新工場の状況について



タイ工場 販売数量推移 (m²/月平均)



タイ新工場概要

生産品目：ビルドアップ配線板、多層プリント配線板
稼働開始：2025年秋より稼働
生産能力：13万m²⇒16万m²（現状＋新工場）

タイ新工場コンセプト

- ・大判化生産による生産性向上
（生産性向上したワークサイズによる生産）
- ・自動化による省人化・歩留まり向上（手扱いレスによる不良削減）
⇒コスト競争力のある工場へ
- ・フィルム使用工程を無くし、サステナブルな工場

5. その他

生産性向上 & 自動化を加速

大判化による高効率生産

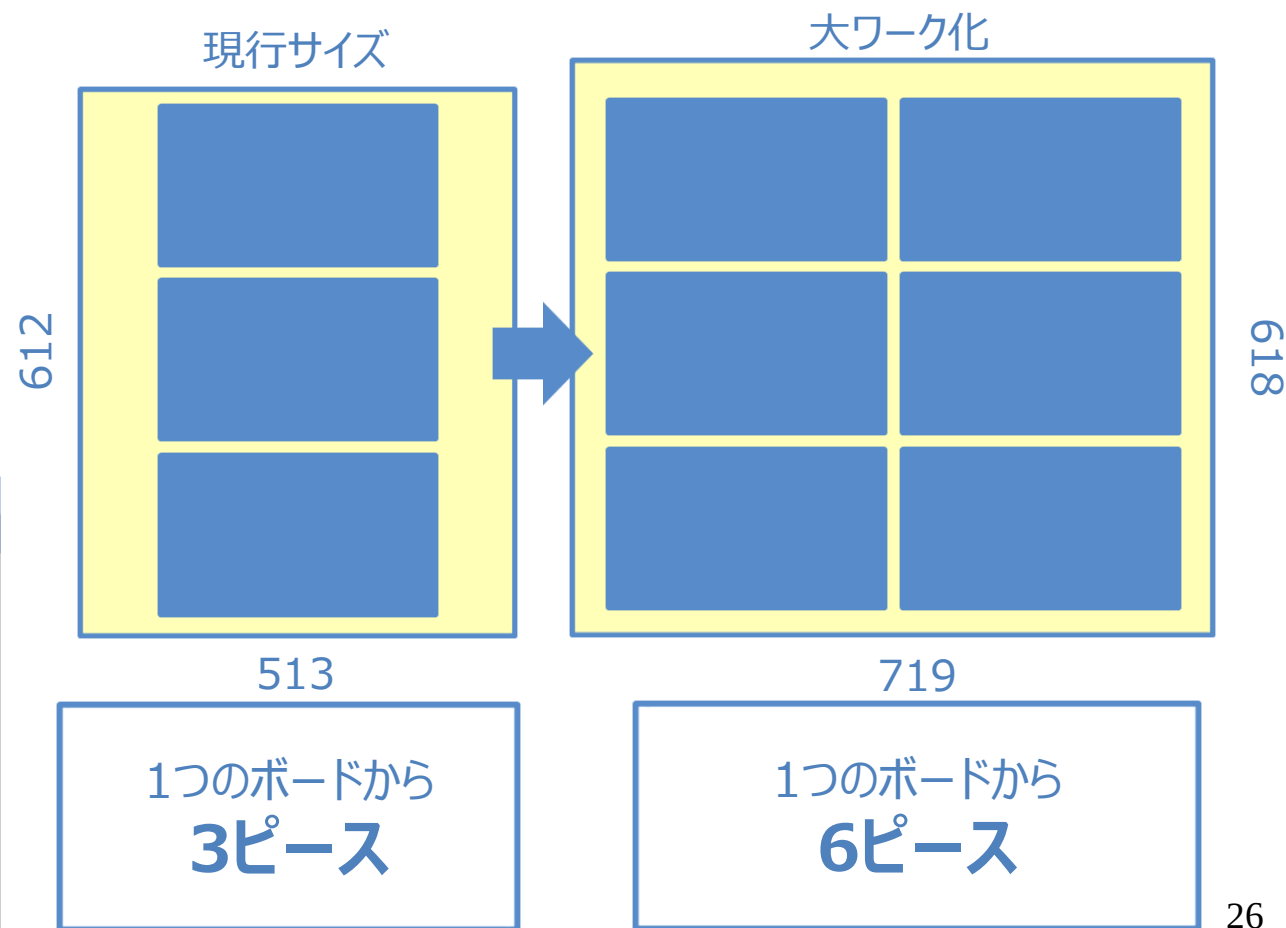
- ・2024年度 無錫工場の設備入替による大判化投資実施
- ・2025年度 大判化による生産を開始
⇒生産性向上により、
無錫工場の利益は向上予定
⇒自動化推進による不良率削減も目指す

その他改善施策

- ・中国工場（無錫・旗利得）マネジメントの統一による合理化、効率化推進
- ・知能化製造管理システムを活用し、コスト競争力（省人化）、品質安定（分析力向上）、生産効率（最良の稼働体制・最適在庫管理）を推進

＜大判化生産イメージ＞

1回の加工で2倍の生産量

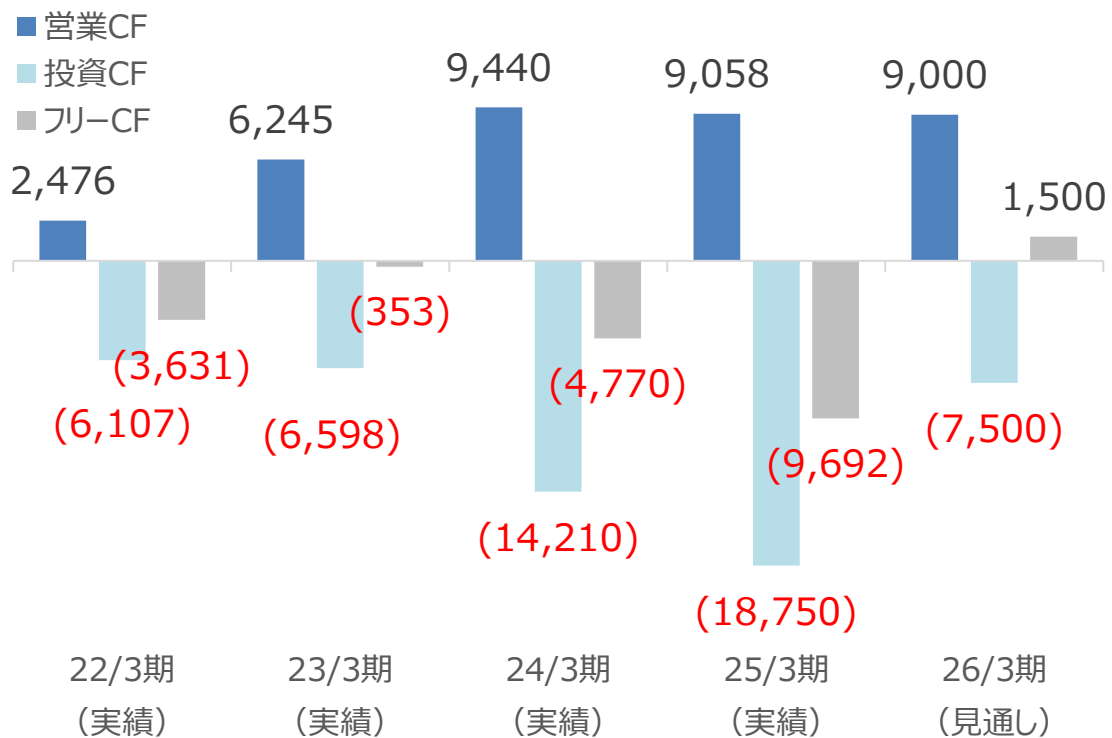


株主還元について

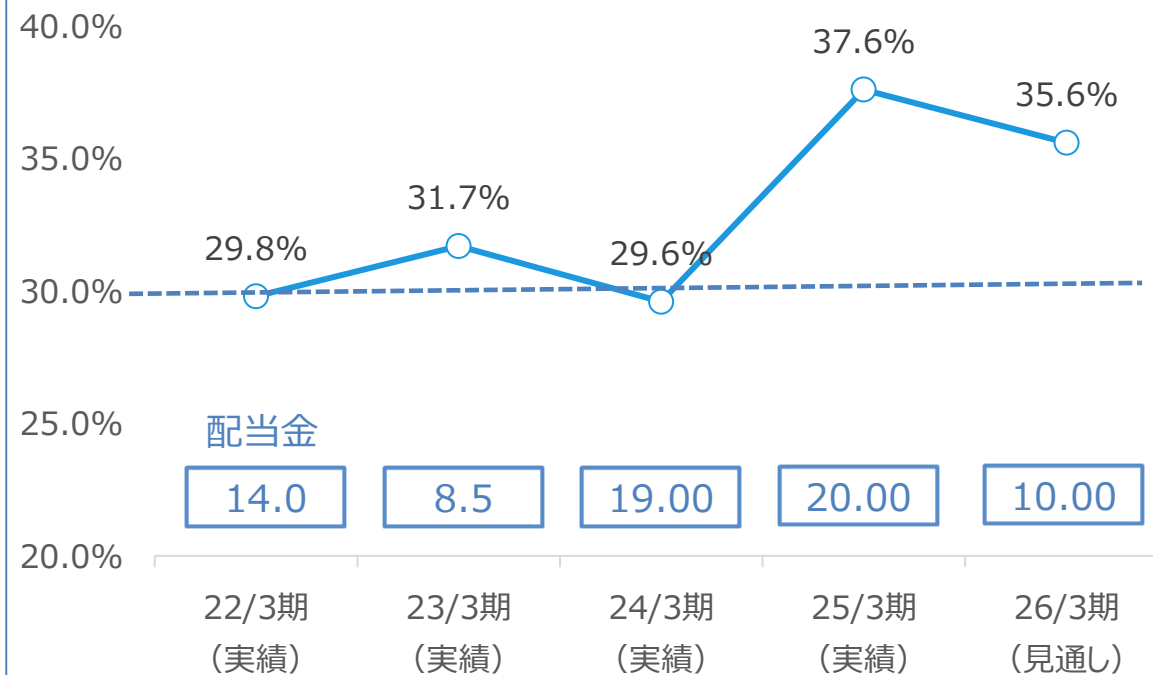


- 配当方針：経営体質の強化と将来の事業展開のために必要な内部留保を確保しつつ、業績や財務状況などを勘案した上で、連結配当性向30%程度を目安に安定的な配当を継続して実施

CF推移（百万円）



配当性向（%）

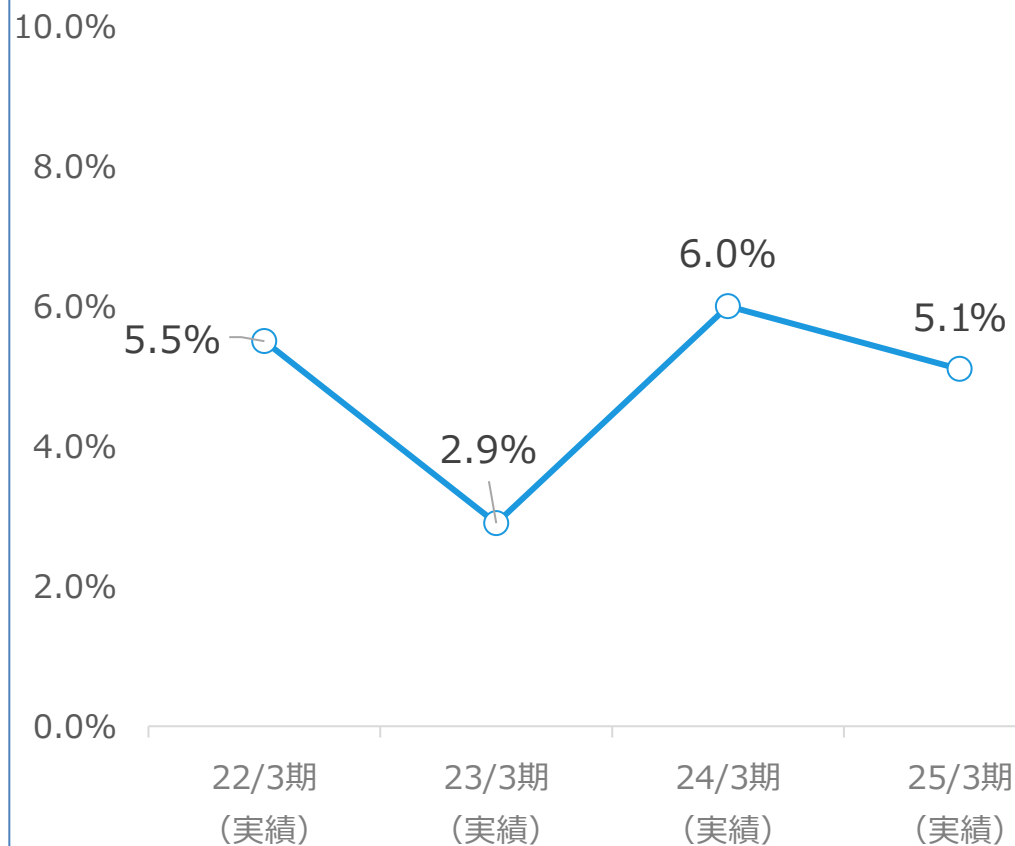


⇒成長戦略実現に向けた設備投資を継続的に実施する必要がある中、株主還元を重要な施策として配当性向を重視した配当を実施

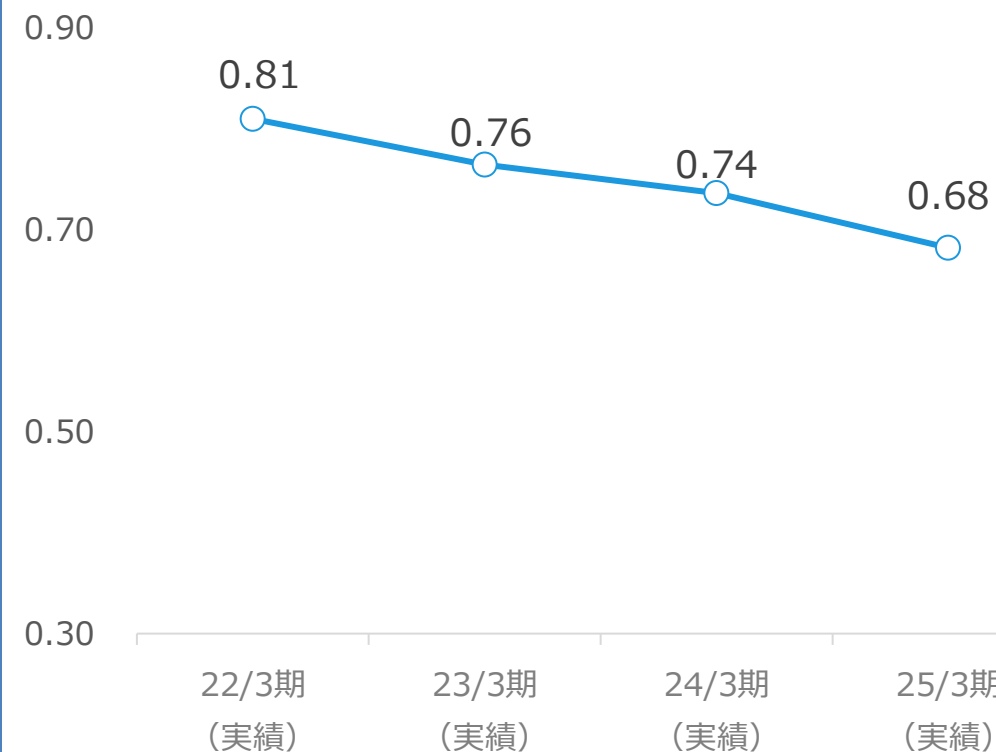
企業価値向上（資本収益性及び市場評価の現状認識）

- ・ROEは株主資本コストを下回っており、ROE向上に向けては、資産の有効活用と収益力強化が不可欠
- ・株価純資産倍率（PBR）は1倍を割り込んでいる現状

ROE推移



総資産回転率推移



企業価値向上（ROE向上・PBR改善に向けて）



下記アクションを実行し、ROEの向上、PBRの改善を目指す

成長戦略

- ・車載製品ポートフォリオの高付加価値シフト（ビルドアップ比率の向上）
- ・タイ新工場の量産稼働による成長戦略の実現
- ・大判化生産による生産性向上
- ・新事業領域の高付加価値品拡販による利益創出

財務戦略

- ・資産効率を継続的に改善
- ・安定的な配当の実施、また還元の充実

IR戦略

- ・IRイベントの拡充により、株主・投資家との対話の強化
- ・開示資料の拡充・対話で得られた意見を取締役会へフィードバックする回数を増加

サステナビリティへ活動の推進（トピックス）



カーボンニュートラルへの取り組みを推進

1 太陽光発電

- ・新潟工場屋上に太陽光パネルを設置し、
2026年夏より稼働開始
これにより、約160tのCO2排出量削減を実現



2 グリーン電力の導入

- ・2024年度より中国工場（無錫・旗利得工場）において、
グリーン電力を導入
これにより、2025年度には無錫工場で100%、
2026年度には旗利得工場で100%をグリーン電力化

3 電力削減

- ・電力定格の大きいユーティリティ設備など老朽化設備を
計画的に入替えし、エネルギー使用量を削減

4 CDP2024

- ・「気候変動レポート2024」にて
2023年に引き続き「B」スコアを獲得



6. 補足資料

	(億円)	24/3期 実績	25/3期 実績	増減額	増減率	26/3期 見通し
車載		775	821	+46	+6%	816
車載内訳	パワートレイン系	309	308	-1	-1%	362
	走行安全系	220	248	+28	+13%	278
	ボディ・快適系	208	238	+29	+14%	158
	情報通信系	36	26	-9	-27%	17
通信		8	11	+3	+39%	13
その他		121	121	-0	-0%	129
合計		905	954	+49	+5%	960

※「その他」：AV・デジタル家電、デジタルカメラ、アミューズメント、その他

②基板種類別売上高

(億円)	24/3期 実績	25/3期 実績	増減額	増減率	26/3期 見通し
ビルドアップ配線板	260	298	+37	+15%	295
多層プリント配線板	498	510	+11	+2%	509
両面プリント配線板	100	100	-0	-0%	76
その他	45	45	-0	-0%	78
合計	905	954	+49	+5%	960

③地域別業績



(億円)		24/3期 実績	25/3期 実績	増減額	増減率	26/3期 見通し
日本	売上高	570	582	+12	+2%	613
	営業利益	15.9	22.1	+6.1	+39%	30.1
中国	売上高	342	344	+1	+0%	313
	営業利益	18.7	15.7	-2.9	-16%	15.6
東南アジア	売上高	301	347	+45	+15%	352
	営業利益	7.6	8.6	+0.9	+13%	0.4
欧米	売上高	44	43	-1	-3%	61
	営業利益	3.2	2.3	-0.8	-27%	3.1
消去又は全社	売上高	▲353	▲361	-8	-	▲380
	営業利益	▲10.3	▲10.8	-0.5	-	▲9.4
連結	売上高	905	954	+49	+5%	960
	営業利益	35.2	38.0	+2.7	+8%	40.0

④設備投資



(億円)	24/3期 実績	25/3期 実績	増減額	26/3期 見通し
国内	16	19	+3	41
海外	143	169	+26	34
連結	159	189	+29	75
減価償却費	52	59	+6	62

本資料における将来情報は、2025年5月時点での見通しであり、
その実現を保証するものではありません。

（金額は切捨て、%は小数第二位を四捨五入にて表示）

END